

New Sophia Hospital

ニューソフィアホスピタル

福岡歯科大学医科歯科総合病院

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号 TEL092(801)0411

No.15
2015.5



病院の理念

私たちは、安全で質の高い、思いやりのある医療を提供するとともに、豊かな人間性を備えた有能な医療人の育成に努めます

病院の基本方針

- 1.患者の皆様を尊重した医療
 - ・温かく思いやりのある医療を提供し、医療倫理の向上をめざします。
- 2.高度医療の提供
 - ・医学、歯学の専門診療科が協力し、総合的で高度な医療を提供します。
- 3.地域医療への貢献
 - ・地域の基幹医療施設として、病診連携の充実を図ります。
- 4.痛みのわかる医療人の育成
 - ・人間性豊かで有能な医療人の育成に努めます。

新病院長挨拶

福岡歯科大学医科歯科総合病院 病院長 池邊 哲郎

「口腔すなはち命の関門」

小幡英之助をご存知でしょうか。今の大分県中津の出身で福沢諭吉の門下生です。彼は日本の歯科医師第1号として知られています。当時は歯科と医科とが分かれておらず、明治7年(1874年)に実施された日本最初の医師国家試験(医術開業試験)を小幡英之助は「歯科」を専門とすることで受験しました。そこで彼は国家試験に合格した医師としては第4号(「医籍第四号」)ですが、歯科専門医としては第1号となるのです。

九州にゆかりがある小幡英之助の医療人としての出自からして歯科と医科とは同根であるように思われますが、まさに本院の最大の特徴は、医科診療科と歯科診療科との連携の強さにあるのではないのでしょうか。元来、本院は歯科大学の附属病院ですから歯科診療が充実しているのは当然ですが、加えて、医科診療科を10診療科以上と増やして、総合病院化しています。つまり、医科と歯科との垣根が極めて低く、患者さんの悩みに両面から支援ができる病院で、このような成り立ちの病院は、小幡英之助の出身地である九州でも本院だけではないのでしょうか。

なぜこのような病院になったのでしょうか。それは近年お口の病気が全身の病気を悪化させたり、全身の病気の症状がお口に現れたりすることがわかってきたからです。歯周病と糖尿病との相互関係、お口の細菌と肺炎との関係、骨粗鬆症のお薬と顎骨壊死との関係などがそのよい例です。皆様の健康を維持・増進するには、歯科医師は医学の知識を身につけて患者さんの全身に配慮しなければなりませんし、医師はお口の健康状態にも目を向けなければならないということです。

同じ九州柳川出身の北原白秋はいくつかの医療系大学や医局の校歌を作詞していますが、その中に「口腔すなはち命の関門」というフレーズがあります。白秋が当時どれほど理解していたのかわかりませんが、今ではお口の健康状態が全身の健康状態に影響するのは明らかなのです。

このような考え方の嚆矢となったのが本学の故・田中健藏前福岡学園理事長の提唱した「口腔医学」という概念です。わが国が直面する超高齢社会の医療には「口腔医学」を実践する病院が必要だということなのです。それが本院です。医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、管理栄養士、歯科技工士、視能訓練士、視能検査技師、事務職員、そして本院で臨床実習する学生に至るまで全スタッフが田中健藏先生の精神を共有して、皆様に温かくて安心できる医療を提供いたします。



本院の特色 ～全身を診ることのできる歯科医師の育成～

安心安全な医療をお届けするためには、歯科と医科との連携が大切です。その点、本院は歯科医師と医師との連携が密で、お互いに協力しやすい環境にあります。患者の皆様におかれましてはどうぞお気軽にご相談いただきますようお願い致します。

また、医師と歯科医師の連携のためには、歯科医師にも医学の専門的知識が必要です。そこで本院では全国に先駆けて「口腔医学」を提唱し、歯科学生の医学教育にも力を注いでいます。



安心安全の方程式は **歯科 + 医科 = 口腔医学**

オーラルくん

歯科医師と 医師との協力の 例として

stomaxくん

- 骨粗鬆症患者の抜歯における整形外科と口腔外科の協力
- 歯周病治療による糖尿病の改善
- 小児のアレルギーにおける小児科と小児歯科の協力
- 蓄膿症における耳鼻科と口腔外科の協力
- 高齢者歯科の口腔ケアによる肺炎予防
- 舌痛に対する口腔外科、麻酔科、心療内科の協力
- 口臭についての口臭外来と消化器外科の協力
- ドライマウスとドライアイ＝口腔外科と眼科

➤ **パート4** 今回は、歯科・医科連携の一例として、小児疾患をご紹介します。

小児の歯科アレルギー

小児歯科教授 尾崎 正雄

本小児歯科診療室では、小児の齲蝕治療を中心として、咬合誘導や外科的処置（口腔外傷、過剰歯摘出など）を行っています。また最近では、全身疾患をお持ちの方が多く来院されており、大学病院の特徴を活かした治療を行っています。近年、小児にはアレルギーが多発しており、厚生労働省の調査でも、0～14歳の子どもの約40%、東京や大阪のような都市部の4歳以下の子どもにいたっては2人に1人が何らかのアレルギーをもっていると言われていています。アレルギーの原因とされる物質（アレルゲン）は、ハウスダストやダニ、植物の花粉、動物の毛、食物アレルギーなど多岐にわたっており、このような状況の中で、歯科治療で用いられる局所麻酔薬や歯科材料に不安をもって来院される方もみられるようになりました。たとえば、食物でアレルギー発作が起こったことがあるので歯科麻酔薬で急性症状が起きないか調べて欲しいなどといった主訴で来院されることがあります。麻酔薬で起こるアレルギーの大半は、麻酔薬の中に入っている防腐剤の影響であるといわれています。しかしながら薬物アレルギーはどのような薬で起こるのか分からないので、私たちは実際に歯科治療で用いられている麻酔薬や歯科材料を用いたアレルギーテスト（プリックテストやパッチテストなど）をお勧めしています。2年前より福岡歯科大学医科歯科総合病院に小児科が開設され、小児歯科と小児科とが協力して対応できる体制ができました。もしお子さんのアレルギーで歯科関係の医薬品や材料との関連がご心配な方は、本院小児歯科に受診して頂ければ幸いです。



局所麻酔薬アレルギーの検査

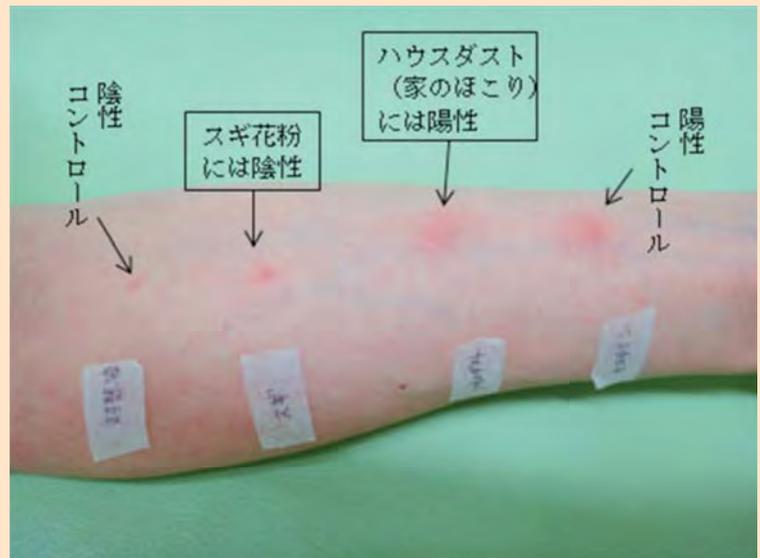
小児科助教 磯部 菜摘 小児科教授 岡田 賢司

局所麻酔は、局所の痛みを取り除くために行われる、歯科診療時には欠かせない処置です。私も数年前に抜歯した際、局所麻酔薬によりほとんど痛みを感じないまま処置していただき、感動した記憶があります。しかし、食物アレルギーなどいろいろなものにアレルギーを持っているお子さんの場合、お子さんが局所麻酔薬に対してもアレルギーかもしれないと、不安を感じる方も多いのではないのでしょうか。

これまでの報告によると、局所麻酔薬アレルギーは 1%未満と極めて少なく、添加物（防腐剤）に対するアレルギー反応とされています。じんましんなどの皮膚症状やゼイゼイなど息苦しくなるような反応が、薬剤投与後数分以内に起こります。

局所麻酔薬へのアレルギー反応と思っていた症状が、ほかの原因である可能性もありますので、まずは症状が出たときの状況を担当の先生に詳しくお話していただくことが大切です。当院小児科外来では、局所麻酔薬アレルギーの可能性が高い患者さんに、皮膚プリックテストを行っています。

皮膚プリックテストは、患者さんの前腕に反応を見たい薬剤を滴下し、小さな針で浅く刺して皮膚の反応をみる検査です（写真参照）。検査を行うことで、患者さんに合った安全な麻酔薬選択の指標にすることができます。この検査結果を踏まえ、担当の先生とよく相談することが必要です。



口の中もスマートにデジタル化!

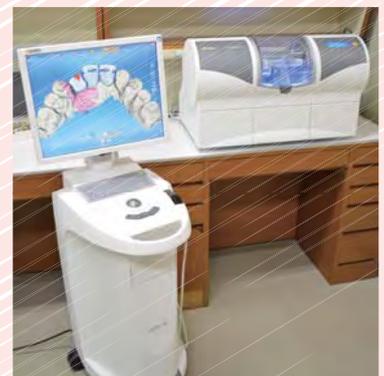
歯科技工士主任 杉本 太郎

パソコン、スマートフォンなど今ではなくてはならないデジタル技術。学校の授業や美術作品にまで使用されるようになってきましたが、口の中の補綴物（かぶせ物）もデジタル技術でつくることができるのをご存じですか？

通常、補綴物は私たち歯科技工士がひとつひとつ手作業で時間をかけて作りあげていくものでした。それが今では、歯の型をとって石膏の模型にするところまでは同じなのですが、レーザー光と特殊なカメラを使って歯型をコンピュータに記録させることができるようになりました。そのデジタルデータを利用して3次元削り出し装置が歯に被せる材料を成形することによって、オーダーメイドの歯が出来上がるのです。近い将来は削った歯のかたちを特殊カメラで記録し、歯型をとる必要さえなくなるかもしれません。

また、インプラントの治療では CT 画像をもとに人工歯根の位置やその上にかぶせる歯のかたちをシミュレートし、ここにも歯科技工士の技術が高い精度で関与します。

デジタル技術でしか造り出せない生体親和性の良い素材であるセラミックスや保険適用のハイブリッド型レジンなど、新しい材料が次々に開発されています。それらを使用して患者さんにより良いものを提供し続けていくために中央技工室の歯科技工士は日々研鑽を積み、学会でも研究発表するなど時代の先頭に立つことを心がけています。



編集 後記

本院では恒例になった学生写真展で桜をテーマに近郊だけではなく、京都や東京、広島の実美しい桜を紹介しました。患者さんが気持ちよく受診して下さるよう、学生も含めていろいろな人たちがさまざまな取り組みをしています。本誌では、病院業務に関わる職種を紹介して、もしかしたらあまり知られていなかったかもしれないところにも光を当てていく企画を考えています。管理栄養士、歯科技工士と続きましたので、次回はどんな職種の紹介になるか、お楽しみに。

患者の皆様への権利

- ① だれもが個人の尊厳を尊重され、良質な医療を公平に安心して受ける権利があります。
- ② 患者には、病気や診療内容について納得できる十分な説明と情報を受ける権利があります。
- ③ 患者には、十分な説明と情報提供を受けた上で治療方法などを自らの意思で選択・決定する権利があります。
- ④ 患者には、診療における個人情報の秘密が守られ、プライバシーが保護される権利があります。
- ⑤ 患者には、ご自身の診療録の開示を求める権利があります。

患者の皆様へのお願い

- ① 良質な医療の提供をうけるために、ご自身の健康に関する情報を正確に提供してください。
- ② 納得のいく医療の提供を受けるために、医療に関する情報と説明について十分理解できるまで質問してください。
- ③ すべての患者の皆様が等しく適切な医療を受けるために、他の患者や病院職員に支障を与えないよう配慮してください。

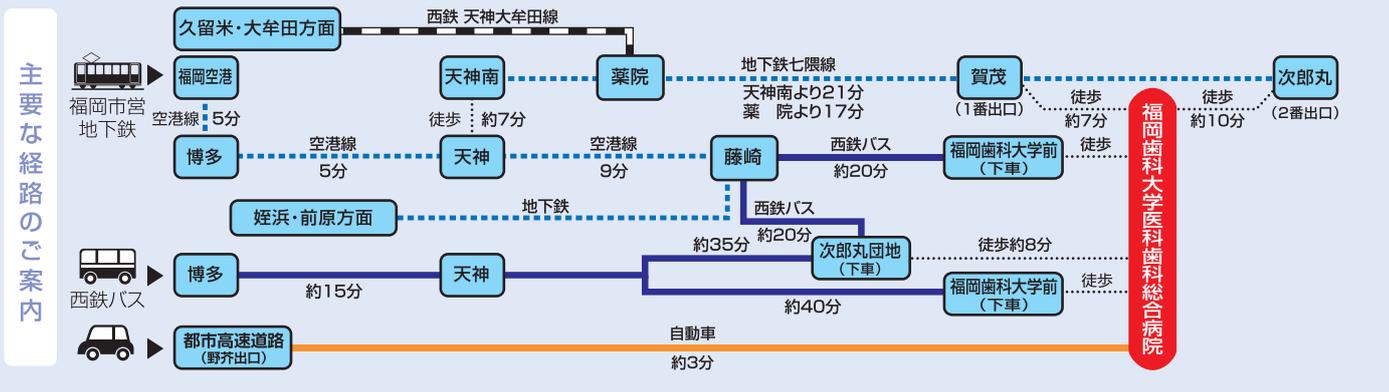
交通のご案内



大駐車場完備 (150台) 広い駐車場なので、待ち時間がなく駐車できます。ご利用下さい。



診療時間 平日: 9:00~18:00 土曜日: 9:00~13:00
受付時間 平日: 8:30~17:00 土曜日: 8:30~11:30
休診日 日曜日・祝日・年末年始
入院患者 面会時間 平日: 13:00~20:00 休日: 10:00~20:00



福岡歯科大学医科歯科総合病院 〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号
 ホームページアドレス <http://www.fdcnet.ac.jp/hos/>

お問い合わせは (092) 801-0411 (代) **ご予約の変更や各診療科へのお問い合わせは (092) 801-0411 (代) にダイヤルし、次の内線番号を教えてください。**

総合歯科 127	口腔インプラント科 277	内科・脳血管・循環器・腎臓・糖尿病 203	耳鼻咽喉科 140
口臭クリニック 127	口腔外科 243	小児科・小児神経科 511	眼科 210
高齢者歯科 127	口腔顔面美容医療センター/歯科 277	心療内科 137	麻酔科(ペインクリニック) 246
訪問歯科 347	矯正歯科 344	外科・消化器・腫瘍・乳腺・肛門 205	放射線診断科 209
保存(むし歯)・歯周病科 278	小児歯科 242	整形外科 349	病棟 251
補綴(入れ歯)科 289	障害者歯科 223	形成外科・美容外科/口腔顔面美容医療センター 211	